

MUAMグローバル・ケイマン・トラストー

新興国高利回り社債ファンド 米ドル建
新興国高利回り社債ファンド 豪ドル建 豪ドルヘッジ

ケイマン諸島籍契約型外国投資信託／追加型

(愛称：グローイング・ギャラクシー)

償還運用報告書
(全体版)

作成対象期間
第 6 期

(自 2017年11月 1 日
至 2018年 3 月26日(早期償還日))

管理会社

ルクセンブルク三菱UFJインベスターサービス銀行S.A.

受益者のみなさまへ

毎々、格別のご愛顧にあずかり厚くお礼申し上げます。

さて、MUAMグローバル・ケイマン・トラスト（以下「ファンド」といいます。）のサブ・ファンドである新興国高利回り社債ファンド 米ドル建および新興国高利回り社債ファンド 豪ドル建 豪ドルヘッジ（以下、個別にまたは総称して「サブ・ファンド」といいます。）は、このたび、2018年3月26日に早期償還致しましたので、ここに、運用状況をご報告申し上げます。

これまでサブ・ファンドをご愛顧頂き、まことにありがとうございました。

ファンドの仕組みは、以下の通りです。

ファンド形態	ケイマン諸島籍契約型外国投資信託	
信託期間	サブ・ファンドは、管理会社が受託会社と協議の上、存続期間の延長を決定しない限り、2022年10月31日に終了します。 償還金の支払いについては、償還日以降、相応の日数がかかることがあります。サブ・ファンドは、2018年3月26日付で早期償還されました。	
運用方針	サブ・ファンドの投資目的は、ピムコ・バミューダ・エマージング・マーケット・ハイイールド・コーポレート・ボンド・ファンドAのクラスF（USD）またはピムコ・バミューダ・エマージング・マーケット・ハイイールド・コーポレート・ボンド・ファンドBのクラスF（AUD）への投資を通じて、エマージング証券市場を有する国と経済的な結びつきを有する企業の米ドル建ての高利回り債券（以下「新興国高利回り社債」という。）に主として投資することにより、安定した利子収益の確保および値上がり益の獲得を目指すことです。	
主要投資対象	サブ・ファンド	ピムコ・バミューダ・エマージング・マーケット・ハイイールド・コーポレート・ボンド・ファンドAのクラスF（USD）またはピムコ・バミューダ・エマージング・マーケット・ハイイールド・コーポレート・ボンド・ファンドBのクラスF（AUD） 受益証券
	フィーダー・ファンド	ピムコ バミューダ エマージング マーケット ハイ イールド コーポレート ボンド ファンド (M)
	マスター・ファンド	米ドル建ての新興国の高利回り社債およびその派生商品等
ファンドの運用方法	米ドル建ての新興国の高利回り社債を実質的な主要投資対象とします。 ・ファンド・オブ・ファンズ方式により運用を行います。 ・主として外国投資信託への投資を通じて、米ドル建ての新興国の高利回り社債等に実質的な投資を行います。 ・投資する米ドル建ての新興国の高利回り社債は、原則として取得時においてCCC格相当以上の格付けを取得しているものに限りません。 新興国高利回り社債ファンド 米ドル建は実質的な為替変動リスクがないため、為替ヘッジを行いません。 新興国高利回り社債ファンド 豪ドル建 豪ドルヘッジは、米ドル売り・豪ドル買いの為替ヘッジを行い、為替変動リスクの低減を図ります。	
主な投資制限	サブ・ファンドに適用される投資制限は以下のとおりです。 (イ) サブ・ファンドについて空売りされる有価証券の時価総額は、サブ・ファンドの純資産総額を超えないものとします。 (ロ) サブ・ファンドの純資産総額の10%を超えて、借入れを行うものではありません。ただし、合併等の特別緊急事態により一時的に、かかる10%を超える場合はこの限りではありません。 (ハ) 管理会社の運用する証券投資信託およびミューチュアル・ファンドの全体において、一発行会社の議決権総数の50%を超えて投資を行ってはなりません。かかる制限は、他の投資信託に対する投資には適用されません。 (注) 上記の比率の計算は、買付時点基準または時価基準のいずれかによることができます。	

	<p>(ニ) サブ・ファンドは、私募株式、非上場株式または不動産等、流動性に欠ける資産に対しその純資産の15%を超えて投資を行いません。ただし、日本証券業協会が定める外国投資信託受益証券の選別基準（随時改訂または修正されることがあります。）（外国証券の取引に関する規則第16条）に要求されるとおり、価格の透明性を確保する方法が取られている場合はこの限りではありません。</p> <p>（注）上記の比率の計算は、買付時点基準または時価基準のいずれかによることができます。</p> <p>(ホ) 投資対象の購入、投資および追加の結果、サブ・ファンドの資産額の50%を超えて、日本の金融商品取引法（昭和23年法律第25号（改正済））第2条第1項に規定される「有価証券」の定義に該当しない資産を構成する場合、かかる投資対象の購入、投資および追加を行いません。</p> <p>(ヘ) 管理会社が自己または第三者の利益を図る目的で行う取引等、受益者の保護に欠け、またはサブ・ファンドの資産の適正な運用を害するサブ・ファンドのための管理会社の取引は、すべて禁止されます。</p> <p>(ト) サブ・ファンドは、日本証券業協会により、1973年12月4日に採択された「外国証券の取引に関する規則」（改訂済）第16条第9号に従い、信用リスクを管理する方法として管理会社が定めた合理的な方法に反する取引を行わないものとします。</p> <p>サブ・ファンドの投資対象の価値の変化、再構成、合併、サブ・ファンドの資産からの支払またはサブ・ファンドの受益証券の買戻しの結果としてサブ・ファンドに適用される制限を超えた場合、管理会社は、直ちにサブ・ファンドの投資対象を売却する必要はありません。しかし、管理会社は、サブ・ファンドの受益者の利益を考慮した上で、違反が判明してから合理的な期間内にサブ・ファンドに適用される制限を遵守するために合理的に可能な措置を講じるものとします。</p>
<p>分配方針</p>	<p>管理会社は、その裁量により、毎月13日（当該日が営業日でない場合は翌営業日）に、純投資収入、純実現・未実現キャピタルゲインおよび分配可能資本から分配を宣言することができます。</p> <p>分配は、分配宣言（同日を含みます。）から5営業日以内に受益者（日本においては、日本における販売会社）に対して行われます。</p>

I. 設定から前期までの運用の経過

第1期（2013年2月18日～2013年10月末日）

【運用状況】

＜新興国高利回り社債ファンド 米ドル建＞

当ファンドでは、外国投資信託への投資を通じて米ドル建ての新興国の高利回り社債を高位に組み入れた運用を行いました。

＜新興国高利回り社債ファンド 豪ドル建 豪ドルヘッジ＞

当ファンドでは、外国投資信託への投資を通じて米ドル建ての新興国の高利回り社債を高位に組み入れた運用を行うとともに、米ドル売り・豪ドル買いの為替取引を行い、為替変動リスクの低減を図りました。

【運用方針】

＜運用見通し＞

過去数ヵ月間は米国の金融政策の先行き不透明感がエマージング債券市場にとって大きな影響を与えてきました。今後も短期的な投資資金のフローの動向に注意する必要がある一方、各国の外貨準備の運用基金や年金投資家など長期の投資家は構造的にエマージング諸国に対する投資比率が低いと思われることから、市場が大きく下落した際には、こうした投資家が積極的に資金を振り向けるなど、今後も強い需要が見込まれることは、引き続き新興国資産に対する中長期的な支援材料になると考えられます。ファンダメンタルズに目を向けると、今後も中長期的にエマージング諸国が先進国を上回る成長を達成すると予想される一方、成長率自体は減速すると予想しています。エマージング債券への投資を考える上で重要な支払い能力については、海外資金の流出が金融危機へと繋がった80年代初や90年代と比較すると、足下で外貨準備高や経常収支などの観点からエマージング経済の支払い能力は飛躍的に高まっており、短期的な投資資金の流出が新たな金融危機に繋がる可能性は低いと考えます。こうした環境下、足下でエマージング諸国関連資産が下落したことを受けて、一部では魅力的な投資機会も出現しつつあると考えています。

しかし、このような見通しは全てのエマージング諸国に当てはまる訳ではありません。今後は、先進国の金融政策の方向性の変化を受けてエマージング諸国への資金流入はより国ごとに選別的になると予想されます。したがって、各国の財政状況や対外収支状況などファンダメンタルズの分析に主軸を置いた投資対象国の選別が一層重要になると考えます。今後、新興国高利回り社債についても、先進国の財政問題や景気見通しの下振れといった外部環境が悪化する局面では、他のリスク性資産と同様にマイナスの影響を受ける可能性があります。しかし、新興国における消費市場の拡大や国内貯蓄の積み上がりにより新興国企業が資金調達を行うことができる環境が整いつつある点、新興国企業の財務状況が比較的健全である点は同社債市場に対するプラス材料だと判断しています。

第2期（2013年11月1日～2014年10月末日）

【運用状況】

＜新興国高利回り社債ファンド 米ドル建＞

当ファンドでは、外国投資信託への投資を通じて米ドル建ての新興国の高利回り社債を高位に組み入れた運用を行いました。

＜新興国高利回り社債ファンド 豪ドル建 豪ドルヘッジ＞

当ファンドでは、外国投資信託への投資を通じて米ドル建ての新興国の高利回り社債を高位に組み入れた運用を行うとともに、米ドル売り・豪ドル買いの為替ヘッジを行い、為替変動リスクの低減を図りました。

【運用方針】

<運用見通し>

足下では、アルゼンチン、ベネズエラなどファンダメンタルズが脆弱な国々やウクライナ、中東など地政学的リスクの高まりが見られる国々では変動性の高い相場展開が続いているものの、エマージング債券市場全体としては比較的安定的な値動きとなっています。これは、海外からの投資資金の流出が金融危機へと繋がった90年代に比べ、現在の主要エマージング諸国は潤沢な外貨準備高を有しているなど債務返済能力が飛躍的に高まっており、足下の市場の混乱が新興国全般の金融危機に繋がる可能性は低いと考えられるためです。加えて、エマージング諸国のファンダメンタルズとは異なる要因で債券市況が下落する局面では、魅力的な投資機会が出現することもあり得ると見ています。

しかし、このような見通しは全てのエマージング諸国に当てはまる訳ではなく、今後の米国の金融政策動向に市場の注目が集まるなかで、エマージング諸国への投資は国ごとにより選別的になると見ています。さらに、地政学的リスクの高まりが市場に与える影響にも注視する必要があります。

したがって、各国の財政状況や対外収支状況などファンダメンタルズの分析に主軸を置きつつ、政治的・経済的要因についても配慮した投資対象国の選別が一層重要になると考えています。具体的には、潤沢な外貨準備高を有するブラジルやロシアなどに対して積極姿勢とします。一方、ファンダメンタルズが脆弱で、かつ対外資金への依存度が高いハンガリーやアルゼンチンといった国々は、外部環境からの影響を受けやすい点も考慮し、消極姿勢とします。

加えて、新興国企業が経済成長の一端を担うと同時に、国の成長自体からも恩恵を受けるという国と企業の相互関係を重視し、国にとって成長に重要で政府による支援が得られやすい産業や国内外に収益基盤を持つ企業などを選好しつつ、慎重に銘柄選択を行ってまいります。

第3期（2014年11月1日～2015年10月末日）

■ 1口当たり純資産価格の主な変動要因

（マイナス要因）

国別配分等の一部の投資戦略がマイナスとなったことや管理報酬等のコスト等が基準価額の下落要因となりました。

【投資環境について】

期初、原油価格の大幅な下落等を背景に新興国に対する景気減速懸念が高まり、投資家心理が悪化したこと等を受けて、新興国高利回り社債市況は大幅下落しました。しかし、その後、原油価格の回復や中国の追加金融緩和の実施等を背景に、スプレッドが縮小したこと等から反発し、期を通じてみると、新興国高利回り社債市況はほぼ横這いとなりました。

【ポートフォリオについて】

<各サブ・ファンド>

- ピムコ社の運用する外国投資信託への投資を通じて、米ドル建ての新興国の高利回り社債を高位に組み入れた運用を行いました。当期は、債券利子収入を獲得したこと等がプラスとなったものの、国別配分等の一部の投資戦略や管理報酬等のコストがマイナスとなったこと等から、基準価額は下落しました。

<ピムコ バミューダ エマージング マーケット ハイ イールド コーポレート ボンド ファンドAークラスF (USD) >

●基準価額は、当作成期首に比べ下落しました。

◎国別・セクター配分戦略

●国別配分に関しては、豊富な外貨準備高や健全な経常収支構造などファンダメンタルズの観点において相対的に優位と考えたブラジル等の国々に対して積極姿勢としました。一方、財務状況の透明性に懸念がある不動産関連企業を中心に中国や香港に対して消極姿勢としました。

●上記の運用を行った結果、国別配分において積極姿勢としたブラジルが景気減速や政局の不安定化等を背景に軟調な展開となったことに加え、個別銘柄選択において保有していた一部のエネルギー関連銘柄が下落したこと等が、基準価額のマイナスに影響しました。

<ピムコ バミューダ エマージング マーケット ハイ イールド コーポレート ボンド ファンドBークラスF (AUD) >

●基準価額は、当作成期首に比べ下落しました。

●保有外貨建て資産に対しては、米ドル売り、豪ドル買いの為替ヘッジを行いました。

◎為替ヘッジによるプレミアム（金利差相当分の収益）

●豪ドルの短期金利は米ドルの短期金利に対して高位で推移したため、これら2通貨間の短期金利差を背景とした為替ヘッジによるプレミアムは基準価額に対する上昇要因となりました。

◎国別・セクター配分戦略

●国別配分に関しては、豊富な外貨準備高や健全な経常収支構造などファンダメンタルズの観点において相対的に優位と考えたブラジル等の国々に対して積極姿勢としました。一方、財務状況の透明性に懸念がある不動産関連企業を中心に中国や香港に対して消極姿勢としました。

●上記の運用を行った結果、国別配分において積極姿勢としたブラジルが景気減速や政局の不安定化等を背景に軟調な展開となったことに加え、個別銘柄選択において保有していた一部のエネルギー関連銘柄が下落したこと等が、基準価額のマイナスに影響しました。

第4期（2015年11月1日～2016年10月末日）

■1口当たり純資産価格の主な変動要因

（プラス要因）

新興国高利回り社債市況が上昇したことや債券利子収入を獲得したこと等が基準価額の上昇要因となりました。

【投資環境について】

当期は、米国の利上げ観測が後退する局面が見られたことや原油価格が底堅く推移したことを背景に市場心理が改善したこと等が影響し、新興国高利回り社債市況は上昇しました。

【ポートフォリオについて】

<各サブ・ファンド>

●ピムコ社の運用する外国投資信託への投資を通じて、米ドル建ての新興国の高利回り社債を高位に組み入れた運用を行いました。当期は、管理報酬等のコストがマイナスに影響したものの、新興国高利回り社債市況が上昇したことや債券利子収入を獲得したこと等がプラスに寄与したことから、基準価額は上昇しました。

<ピムコ バミューダ エマージング マーケット ハイ イールド コーポレート ボンド ファンドAークラスF (USD) >

●基準価額は、当作成期首に比べ上昇しました。

◎国別・セクター配分戦略

●国別配分に関しては、外貨準備や経常収支といったファンダメンタルズ面で相対的に優位との判断から、ブラジルやロシア等に対して重点投資しました。セクター配分では、政府支援が期待でき、国の成長の恩恵を享受できると考える、石油・ガスや大手金融機関等を中心に投資しました。一方、対外資金への依存度が高く外部環境からの影響を受けやすいと思われるハンガリー等に対して消極姿勢としました。

●上記の運用を行った結果、新興国高利回り社債市況が上昇したことや債券利子収入を獲得したことに加え、保有していたブラジルの金融機関銘柄が上昇したこと等が、基準価額にプラスに寄与しました。

<ピムコ バミューダ エマージング マーケット ハイ イールド コーポレート ボンド ファンドBークラスF (AUD) >

●基準価額は、当作成期首に比べ上昇しました。

●保有外貨建て資産に対しては、米ドル売り、豪ドル買いの為替ヘッジを行いました。

◎為替ヘッジによるプレミアム（金利差相当分の収益）

●豪ドルの短期金利は米ドルの短期金利に対して高位で推移したため、これら2通貨間の短期金利差を背景とした為替ヘッジによるプレミアムは基準価額に対する上昇要因となりました。

◎国別・セクター配分戦略

●国別配分に関しては、外貨準備や経常収支といったファンダメンタルズ面で相対的に優位との判断から、ブラジルやロシア等に対して重点投資しました。セクター配分では、政府支援が期待でき、国の成長の恩恵を享受できると考える、石油・ガスや大手金融機関等を中心に投資しました。一方、対外資金への依存度が高く外部環境からの影響を受けやすいと思われるハンガリー等に対して消極姿勢としました。

●上記の運用を行った結果、新興国高利回り社債市況が上昇したことや債券利子収入を獲得したことに加え、保有していたブラジルの金融機関銘柄が上昇したこと等が、基準価額にプラスに寄与しました。

第5期 (2016年11月1日～2017年10月末日)

■1口当たり純資産価格の主な変動要因

(プラス要因)

新興国高利回り社債市況が上昇したことや債券利子収入を獲得したこと等が基準価額の上昇要因となりました。

【投資環境について】

当期は、原油価格が底堅く推移したことを背景に市場心理が改善したこと等が影響し、新興国高利回り社債市況は上昇しました。

【ポートフォリオについて】

<各サブ・ファンド>

- ピムコ社の運用する外国投資信託への投資を通じて、米ドル建ての新興国の高利回り社債を高位に組み入れた運用を行いました。当期は、管理報酬等のコストがマイナスに影響したものの、新興国高利回り社債市況が上昇したことや債券利子収入を獲得したこと等がプラスに寄与したことから、基準価額は上昇しました。

<ピムコ バミューダ エマージング マーケット ハイ イールド コーポレート ボンド ファンドAークラスF (USD) >

- 基準価額は、当作成期首に比べ上昇しました。
- ◎国別・セクター配分戦略
 - 国別配分に関しては、外貨準備や経常収支といったファンダメンタルズ面で相対的に優位との判断から、ブラジル等に対して重点投資しました。セクター配分では、政府支援が期待でき、国の成長の恩恵を享受できると考える、石油・ガスや大手金融機関等を中心に投資しました。一方、対外資金への依存度が高く外部環境からの影響を受けやすいと思われるハンガリー等に対して消極姿勢としました。
 - 上記の運用を行った結果、新興国高利回り社債市況が上昇したことや債券利子収入を獲得したこと等が、基準価額にプラスに寄与しました。

<ピムコ バミューダ エマージング マーケット ハイ イールド コーポレート ボンド ファンドBークラスF (AUD) >

- 基準価額は、当作成期首に比べ上昇しました。
- 保有外貨建て資産に対しては、米ドル売り、豪ドル買いの為替ヘッジを行いました。
- ◎為替ヘッジによるプレミアム（金利差相当分の収益）
 - 豪ドルの短期金利は米ドルの短期金利に対して高位で推移したため、これら2通貨間の短期金利差を背景とした為替ヘッジによるプレミアムは基準価額に対する上昇要因となりました。
- ◎国別・セクター配分戦略
 - 国別配分に関しては、外貨準備や経常収支といったファンダメンタルズ面で相対的に優位との判断から、ブラジル等に対して重点投資しました。セクター配分では、政府支援が期待でき、国の成長の恩恵を享受できると考える、石油・ガスや大手金融機関等を中心に投資しました。一方、対外資金への依存度が高く外部環境からの影響を受けやすいと思われるハンガリー等に対して消極姿勢としました。
 - 上記の運用を行った結果、新興国高利回り社債市況が上昇したことや債券利子収入を獲得したこと等が、基準価額にプラスに寄与しました。

II. 当期の運用の経過等

(1) 当期の運用の経過

■当期の1万口当たり純資産価格等の推移について

*騰落率は、税引前の分配金を分配時に再投資したものとみなして計算しています。以下同じです。

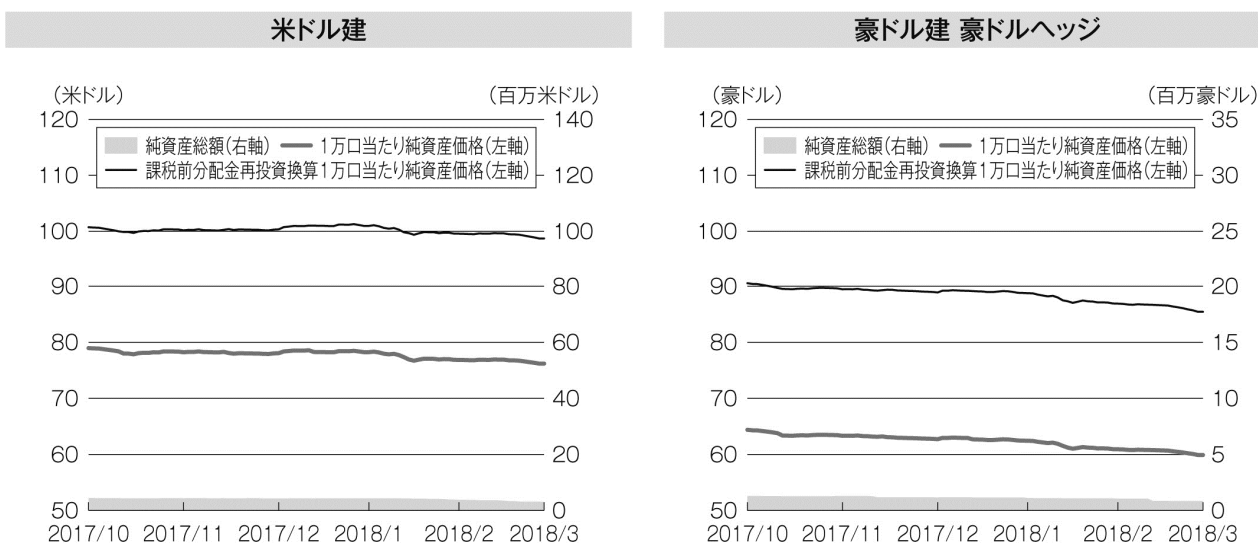
*1口当たり分配金合計額は、税引前の1口当たり分配金の合計額を記載しています。以下同じです。

*会計期末の純資産総額については、費用・現金等に係る一定の調整がなされた財務書類上の数値を記載しているため、各月末の営業日の数値と異なる場合があります。以下同じです。

*課税前分配金再投資換算1万口当たり純資産価格は、税引前の分配金を分配時にサブ・ファンドへ再投資したとみなして算出したもので、サブ・ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。以下同じです。

*課税前分配金再投資換算1万口当たり純資産価格は、1万口当たり当初発行価格（米ドル建は100米ドル、豪ドル建 豪ドルヘッジは100豪ドル）を起点として計算しています。

*サブ・ファンドにベンチマークは設定されていません。



		第5期末の 1口当たりの 純資産価格	第6期末の 1口当たりの 純資産価格	第6期中の 1口当たり 分配金合計額	騰落率 (%)
米ドル建	(米ドル)	0.007895	0.007619	0.00012	-2.00
豪ドル建 豪ドルヘッジ	(豪ドル)	0.006438	0.005989	0.00009	-5.63

■1口当たり純資産価格の主な変動要因

(マイナス要因)

●新興国高利回り社債市況が下落したことや管理報酬等のコスト等が基準価額の下落要因となりました。

■分配金について

当期（2017年11月1日～2018年3月26日）の1万口当たり分配金（税引前）はそれぞれ下表のとおりです。なお、下表の「分配金を含む1万口当たり純資産価格の変動額」は、当該分配落日における1万口当たり分配金額と比較する目的で、便宜上算出しているものです。

<米ドル建>

（金額：米ドル）

分配落日	1万口当たり純資産価格 ^(注1)	1万口当たり分配金額 (対1万口当たり純資産価格比率 ^(注2))	分配金を含む1万口当たり純資産価格の変動額 ^(注3)
2017年11月13日	77.98	0.30 (0.38%)	-0.74
2017年12月13日	78.08	0.30 (0.38%)	0.40
2018年1月16日	78.26	0.30 (0.38%)	0.48
2018年2月13日	76.92	0.30 (0.39%)	-1.04

(注1) 当該分配落日が評価日でない場合には、当該分配落日の直後の評価日における1万口当たり純資産価格とします。下記(注2)から(注4)を含め、以下本「分配金について」において同様とします。

(注2) 「対1万口当たり純資産価格比率」とは、以下の計算式により算出される値であり、サブ・ファンドの収益率とは異なる点にご留意ください。

$$\text{対1万口当たり純資産価格比率 (\%)} = 100 \times a / b$$

a = 当該分配落日における1万口当たり分配金額

b = 当該分配落日における1万口当たり純資産価格 + 当該分配落日における1万口当たり分配金額

以下同じです。

(注3) 「分配金を含む1万口当たり純資産価格の変動額」とは、以下の計算式により算出されます。

$$\text{分配金を含む1万口当たり純資産価格の変動額} = b - c$$

b = 当該分配落日における1万口当たり純資産価格 + 当該分配落日における1万口当たり分配金額

c = 当該分配落日の直前の分配落日における1万口当たり純資産価格

以下同じです。

(注4) 2017年11月13日の直前の分配落日（2017年10月13日）における1万口当たり純資産価格は、79.02米ドルでした。

<豪ドル建 豪ドルヘッジ>

(金額：豪ドル)

分配落日	1万口当たり純資産価格	1万口当たり分配金額 (対1万口当たり純資産 価格比率)	分配金を含む1万口当たり 純資産価格の変動額
2017年11月13日	63.36	0.30 (0.47%)	-1.23
2017年12月13日	63.06	0.20 (0.32%)	-0.10
2018年1月16日	62.68	0.20 (0.32%)	-0.18
2018年2月13日	61.20	0.20 (0.33%)	-1.28

(注) 2017年11月13日の直前の分配落日(2017年10月13日)における1万口当たり純資産価格は、64.89豪ドルでした。

■投資環境について

当期は、期後半に世界的に株式市況が調整したことや米国の貿易政策に対する懸念が高まったことなどを背景にリスク回避の動きが強まったことや米国金利が上昇したことなどが影響し、新興国高利回り社債市況は下落しました。

■ポートフォリオについて

<各サブ・ファンド>

- ピムコ社の運用する外国投資信託への投資を通じて、米ドル建ての新興国の高利回り社債を高位に組み入れた運用を行いました。当期は、債券利子収入を獲得したこと等がプラスに寄与したものの、新興国高利回り社債市況が下落したことや管理報酬等のコスト等がマイナスに影響したことから、基準価額は下落しました。

<ピムコ バミューダ エマージング マーケット ハイ イールド コーポレート ボンド ファンドAークラスF (USD) >

- 基準価額は、当作成期首に比べ上昇しました。

◎国別・セクター配分戦略

- 国別配分に関しては、外貨準備や経常収支といったファンダメンタルズ面で相対的に優位との判断から、ブラジル等に対して重点投資しました。セクター配分では、政府支援が期待でき、国の成長の恩恵を享受できると考える、石油・ガスや大手金融機関等を中心に投資しました。一方、過剰債務や過剰設備などの構造的問題を抱え、経済成長の鈍化が懸念される中国等に対して消極姿勢としました。
- 上記の運用を行った結果、新興国高利回り社債市況が下落したことや管理報酬等のコスト等が、基準価額にマイナスに影響しました。

<ピムコ バミューダ エマージング マーケット ハイ イールド コーポレート ボンド ファンドBークラスF (AUD) >

- 基準価額は、当作成期首に比べ下落しました。
- 保有外貨建て資産に対しては、米ドル売り、豪ドル買いの為替ヘッジを行いました。
- ◎為替ヘッジによるコスト（金利差相当分の損失）／プレミアム（金利差相当分の収益）

- 当作成期初、豪ドルの短期金利は米ドルの短期金利に対して高位で推移したため、これら2通貨間の短期金利差を背景とした為替ヘッジによるプレミアムは基準価額に対する上昇要因となりました。しかしその後、米ドルの短期金利が相対的に大きく上昇したことにより、当作成期末にかけて豪ドルの短期金利は米ドルの短期金利に対して低位となったため、これら2通貨間の短期金利差を背景とした為替ヘッジによるコストは基準価額に対する下落要因となりました。

◎国別・セクター配分戦略

- 国別配分に関しては、外貨準備や経常収支といったファンダメンタルズ面で相対的に優位との判断から、ブラジル等に対して重点投資しました。セクター配分では、政府支援が期待でき、国の成長の恩恵を享受できると考える、石油・ガスや大手金融機関等を中心に投資しました。一方、過剰債務や過剰設備などの構造的問題を抱え、経済成長の鈍化が懸念される中国等に対して消極姿勢としました。
- 上記の運用を行った結果、新興国高利回り社債市況が下落したことや管理報酬等のコスト等が、基準価額にマイナスに影響しました。

■投資の対象とする有価証券の主な銘柄

当期末現在における有価証券の主な銘柄については、後記「IV. ファンドの経理状況 (3) 投資有価証券明細表等」をご参照ください。

■今後の運用方針

サブ・ファンドは、2018年3月26日に償還されました。

■お知らせ

サブ・ファンドの運用資産残高が減少したことに伴い、サブ・ファンドが行う債券投資から得ることができるインカム収入に比べて運営維持に係る費用が相対的に高くなり、今後受益者の皆さまに適切なリターンを提供することが困難になったため、受託会社は、管理会社と協議の上、2018年3月26日をもってサブ・ファンドを繰上償還いたしました。

(2) 費用の明細

項目	項目の概要									
管理報酬 (副管理報酬を含みます。)	サブ・ファンドの純資産総額の年率0.04%									
受託報酬	サブ・ファンドの純資産総額の年率0.01% (ただし、最低報酬額は、年間10,000米ドルとします。)									
管理事務代行報酬兼 名義書換事務代行報酬	<p>管理事務代行報酬兼名義書換事務代行報酬として、サブ・ファンドの純資産総額に対して以下の年率の報酬(ただし、最低報酬額は、月間3,750米ドルとします。)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>新興国高利回り社債ファンド米ドル建/ 豪ドル建 豪ドルヘッジの純資産</th> <th>料率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>5億米ドル/豪ドルまでの部分</td> <td>年率0.05%</td> </tr> <tr> <td>5億米ドル/豪ドルを超え 10億米ドル/豪ドルまでの部分</td> <td>年率0.04%</td> </tr> <tr> <td>10億米ドル/豪ドルを超える部分</td> <td>年率0.03%</td> </tr> </tbody> </table>	新興国高利回り社債ファンド米ドル建/ 豪ドル建 豪ドルヘッジの純資産	料率	5億米ドル/豪ドルまでの部分	年率0.05%	5億米ドル/豪ドルを超え 10億米ドル/豪ドルまでの部分	年率0.04%	10億米ドル/豪ドルを超える部分	年率0.03%	管理事務代行報酬および名義書換事務代行報酬は、信託証書に定める管理事務代行会社兼名義書換事務代行会社としての業務の対価として、管理事務代行会社に支払われます。
新興国高利回り社債ファンド米ドル建/ 豪ドル建 豪ドルヘッジの純資産	料率									
5億米ドル/豪ドルまでの部分	年率0.05%									
5億米ドル/豪ドルを超え 10億米ドル/豪ドルまでの部分	年率0.04%									
10億米ドル/豪ドルを超える部分	年率0.03%									
投資運用報酬 (副投資運用報酬を含みます。)	サブ・ファンドの純資産総額の年率1.07% (このうち年率0.725%以内が副投資運用報酬として副投資運用会社に支払われます。)									
販売報酬	サブ・ファンドの純資産総額の年率0.55%									
代行協会員報酬	サブ・ファンドの純資産総額の年率0.05%									
その他の費用(当期)	米ドル建	1.35%	専門家報酬、印刷費用、保管報酬、登録費用およびその他の費用							
	豪ドル建 豪ドルヘッジ	3.39%								

(注) 各報酬については、目論見書に定められている料率および金額を記しています。「その他の費用(当期)」には、運用状況等により変動するものや実費となるものが含まれます。便宜上、当期のその他の費用の金額をサブ・ファンドの当期末の純資産総額で除して100を乗じた比率を表示していますが、実際の比率とは異なります。

Ⅲ. 直近10期の運用実績

(1) 純資産の推移

下記各会計年度末および第6会計年度中の各月末の純資産の推移は、以下のとおりです。

<米ドル建>

	純資産総額		1口当たり純資産価格	
	米ドル	千円	米ドル	円
第1会計年度末 (2013年10月末日)	49,444,645.37	5,465,611	0.009433	1.0427
第2会計年度末 (2014年10月末日)	17,024,573.57	1,881,896	0.009066	1.0022
第3会計年度末 (2015年10月末日)	7,201,090.43	796,009	0.007667	0.8475
第4会計年度末 (2016年10月末日)	5,554,142.25	613,955	0.007815	0.8639
第5会計年度末 (2017年10月末日)	4,378,188.79	483,965	0.007895	0.8727
第6会計年度末 (2018年3月26日)	2,987,181.24	330,203	0.007619	0.8422
2017年11月末日	4,314,105.66	476,881	0.007821	0.8645
12月末日	4,241,693.68	468,877	0.007805	0.8628
2018年1月末日	4,299,661.97	475,285	0.007823	0.8648
2月末日	3,773,821.91	417,158	0.007685	0.8495
3月26日	2,987,181.24	330,203	0.007619	0.8422

(注1) 別途定める場合を除き、米ドルおよび豪ドルの円貨換算は、2018年6月29日現在の株式会社三菱UFJ銀行の対顧客電信売相場場の仲値である、1米ドル=110.54円および1豪ドル=81.16円によります。以下同じです。

(注2) 会計期末の純資産総額については、費用・現金等に係る一定の調整がなされた財務書類上の数値を記載しているため、各月末の営業日の数値と異なる場合があります。以下同じです。

(注3) 各月末の数値は、販売および買戻目的のため計算されたものです。そのため、中間計算期間末の純資産総額および一口当たり純資産価格は、中間財務書類中の数値とは一致しないことがあります。以下同じです。

<豪ドル建 豪ドルヘッジ>

	純資産総額		1口当たり純資産価格	
	豪ドル	千円	豪ドル	円
第1会計年度末 (2013年10月末日)	18,211,639.65	1,478,057	0.009447	0.7667
第2会計年度末 (2014年10月末日)	7,673,755.58	622,802	0.008869	0.7198
第3会計年度末 (2015年10月末日)	4,229,475.65	343,264	0.007252	0.5886
第4会計年度末 (2016年10月末日)	2,943,088.37	238,861	0.006754	0.5482
第5会計年度末 (2017年10月末日)	1,281,878.06	104,037	0.006438	0.5225
第6会計年度末 (2018年3月26日)	830,448.21	67,399	0.005989	0.4861
2017年11月末日	1,286,654.29	104,425	0.006331	0.5138
12月末日	1,157,964.26	93,980	0.006271	0.5090
2018年1月末日	1,099,325.65	89,221	0.006242	0.5066
2月末日	1,042,345.50	84,597	0.006091	0.4943
3月26日	830,448.21	67,399	0.005989	0.4861

(注) 上記に記載された各月末日の数値は、販売および買戻目的のため計算されたものです。そのため、中間計算期間末の純資産総額および一口当たり純資産価格は、中間財務書類中の数値とは一致しないことがあります。

(2) 分配の推移

下記期間中の1口当たりの分配の額は、以下のとおりです。

<米ドル建>

計算期間	1口当たり分配金	
	米ドル	円
第1会計年度 (2013年3月8日～2013年10月31日)	0.00020	0.0221
第2会計年度 (2013年11月1日～2014年10月末日)	0.00048	0.0531
第3会計年度 (2014年11月1日～2015年10月末日)	0.00048	0.0531
第4会計年度 (2015年11月1日～2016年10月末日)	0.00048	0.0531
第5会計年度 (2016年11月1日～2017年10月末日)	0.00037	0.0409
第6会計年度 (2017年11月1日～2018年3月26日)	0.00012	0.0133

<豪ドル建 豪ドルヘッジ>

計算期間	1口当たり分配金	
	豪ドル	円
第1会計年度 (2013年3月8日～2013年10月31日)	0.00030	0.0243
第2会計年度 (2013年11月1日～2014年10月末日)	0.00072	0.0584
第3会計年度 (2014年11月1日～2015年10月末日)	0.00067	0.0544
第4会計年度 (2015年11月1日～2016年10月末日)	0.00060	0.0487
第5会計年度 (2016年11月1日～2017年10月末日)	0.00038	0.0308
第6会計年度 (2017年11月1日～2018年3月26日)	0.00009	0.0073

(3) 販売及び買戻しの実績

下記会計年度における販売および買戻しの実績ならびに下記会計年度末日現在の発行済口数は、以下のとおりです。

<米ドル建>

会計年度	販売口数	買戻口数	発行済口数
第1会計年度	7,493,112,182 (7,493,112,182)	2,251,404,928 (2,251,404,928)	5,241,707,254 (5,241,707,254)
第2会計年度	154,223,018 (154,223,018)	3,518,015,449 (3,518,015,449)	1,877,914,823 (1,877,914,823)
第3会計年度	206,091,176 (206,091,176)	1,144,776,755 (1,144,776,755)	939,229,244 (939,229,244)
第4会計年度	78,721,727 (78,721,727)	307,289,772 (307,289,772)	710,661,199 (710,661,199)
第5会計年度	29,843,641 (29,843,641)	185,965,871 (185,965,871)	554,538,969 (554,538,969)
第6会計年度	11,154,456 (11,154,456)	173,622,266 (173,622,266)	392,071,159 (392,071,159)

<豪ドル建 豪ドルヘッジ>

会計年度	販売口数	買戻口数	発行済口数
第1会計年度	2,394,770,403 (2,394,770,403)	467,049,360 (467,049,360)	1,927,721,043 (1,927,721,043)
第2会計年度	83,207,827 (83,207,827)	1,145,695,407 (1,145,695,407)	865,233,463 (865,233,463)
第3会計年度	109,448,851 (109,448,851)	391,445,829 (391,445,829)	583,236,485 (583,236,485)
第4会計年度	229,695,828 (229,695,828)	377,161,098 (377,161,098)	435,771,215 (435,771,215)
第5会計年度	155,339,720 (155,339,720)	392,008,708 (392,008,708)	199,102,227 (199,102,227)
第6会計年度	4,121,781 (4,121,781)	64,556,163 (64,556,163)	138,667,845 (138,667,845)

(注1) () 内の数は本邦内における販売・買戻しおよび発行済口数です。

(注2) 第1会計年度の販売口数は、当初募集期間に販売された販売口数を含みます。

IV. ファンドの経理状況

(i) MUAMグローバル・ケイマン・トラスト－新興国高利回り社債ファンド 米ドル建（ケイマン諸島籍 オープン・エンド型免除アンブレラ・ファンド）

(1) 貸借対照表

MUAMグローバル・ケイマン・トラスト
－新興国高利回り社債ファンド 米ドル建
(ケイマン諸島籍 オープン・エンド型免除アンブレラ・ファンド)

資産負債計算書

2018年3月26日現在（未監査）（清算中）

（米ドルで表示）

	米ドル	千円
資産		
フィーダー・ファンドへの投資（取得原価：3,054,062米ドル）	2,985,356	330,001
現金	92,970	10,277
未収金：		
投資有価証券売却	136,238	15,060
資産合計	<u>3,214,564</u>	<u>355,338</u>
負債		
未払金：		
サブ・ファンド受益証券買戻し	135,970	15,030
未払専門家報酬	49,558	5,478
未払投資運用報酬	9,896	1,094
未払管理報酬	8,463	936
未払管理事務代行および名義書換代行報酬	7,984	883
未払印刷費用	6,944	768
未払販売報酬	5,087	562
未払受託報酬	1,740	192
未払保管報酬	502	55
未払代行協会員報酬	463	51
未払登録費用	10	1
その他の費用	766	85
負債合計	<u>227,383</u>	<u>25,135</u>
純資産	<u>2,987,181</u>	<u>330,203</u>
純資産		
米ドル建クラス	<u>2,987,181</u>	<u>330,203</u>
発行済受益証券口数		
米ドル建クラス	392,071,159 口	
	米ドル	日本円
受益証券1口当たり純資産価格		
米ドル建クラス	0.007619	1

(2) 損益計算書

MUAMグローバル・ケイマン・トラスト
－新興国高利回り社債ファンド 米ドル建
(ケイマン諸島籍 オープン・エンド型免除アンブレラ・ファンド)
損益計算書
2017年11月1日から2018年3月26日までの期間 (未監査) (清算中)
(米ドルで表示)

	米ドル	千円
投資収益		
フィーダー・ファンドからの収益分配	169,323	18,717
費用		
専門家報酬	21,905	2,421
印刷費用	17,630	1,949
投資運用報酬	17,472	1,931
管理事務代行および名義書換代行報酬	14,452	1,598
販売報酬	8,981	993
受託報酬	3,973	439
保管報酬	1,543	171
代行協会員報酬	816	90
管理報酬	653	72
登録費用	139	15
その他の費用	592	65
費用合計	88,156	9,745
投資純利益	81,167	8,972
実現および未実現利益 (損失) :		
実現純利益 (損失) :		
フィーダー・ファンドの売却	(111,873)	(12,366)
実現純損失	(111,873)	(12,366)
未実現評価益 (評価損) の純変動 :		
フィーダー・ファンドへの投資	(45,705)	(5,052)
未実現評価損の純変動	(45,705)	(5,052)
実現および未実現純損失	(157,578)	(17,419)
運用による純資産の減少	(76,411)	(8,446)

MUAMグローバル・ケイマン・トラスト
 ー新興国高利回り社債ファンド 米ドル建
 (ケイマン諸島籍 オープン・エンド型免除アンブレラ・ファンド)
 純資産変動計算書
 2017年11月1日から2018年3月26日までの期間 (未監査) (清算中)
 (米ドルで表示)

	米ドル	千円
運用による純資産の増加 (減少)		
投資純利益	81,167	8,972
実現純損失	(111,873)	(12,366)
未実現評価損の純変動	(45,705)	(5,052)
運用による純資産の減少	(76,411)	(8,446)
受益者への分配	(65,858)	(7,280)
サブ・ファンド受益証券取引による純資産の純減少	(1,248,739)	(138,036)
純資産の純減少	(1,391,008)	(153,762)
純資産		
期首	4,378,189	483,965
期末	2,987,181	330,203
	米ドル建クラス	
サブ・ファンド受益証券取引：		
受益証券		
発行	11,154,456 口	
買戻し	(173,622,266) 口	
受益証券口数の純変動	(162,467,810) 口	
	米ドル	千円
金額		
発行	87,176	9,636
買戻し	(1,335,915)	(147,672)
サブ・ファンド受益証券取引による純資産の純減少額	(1,248,739)	(138,036)

(ii) MUAMグローバル・ケイマン・トラスト－新興国高利回り社債ファンド 豪ドル建 豪ドルヘッジ (ケイマン諸島籍 オープン・エンド型免除アンブレラ・ファンド)

(1) 貸借対照表

MUAMグローバル・ケイマン・トラスト
 ー新興国高利回り社債ファンド 豪ドル建 豪ドルヘッジ
 (ケイマン諸島籍 オープン・エンド型免除アンブレラ・ファンド)

資産負債計算書

2018年3月26日現在 (未監査) (清算中)

(豪ドルで表示)

	豪ドル	千円
資産		
フィーダー・ファンドへの投資 (取得原価 : 848,573豪ドル)	830,478	67,402
現金	113,627	9,222
資産合計	<u>944,105</u>	<u>76,624</u>
負債		
未払金 :		
未払専門家報酬	64,208	5,211
未払管理報酬	21,096	1,712
未払管理事務代行および名義書換代行報酬	10,390	843
未払印刷費用	8,574	696
未払受託報酬	3,395	276
未払投資運用報酬	2,622	213
未払販売報酬	1,348	109
未払保管報酬	913	74
未払代行協会員報酬	123	10
未払登録費用	13	1
その他の負債	975	79
負債合計	<u>113,657</u>	<u>9,224</u>
純資産	<u>830,448</u>	<u>67,399</u>
純資産		
豪ドル建クラス	<u>830,448</u>	<u>67,399</u>
発行済受益証券口数		
豪ドル建クラス	138,667,845 口	
	豪ドル	日本円
受益証券1口当たり純資産価格		
豪ドル建クラス	0.005989	0

(2) 損益計算書

MUAMグローバル・ケイマン・トラスト
－新興国高利回り社債ファンド 豪ドル建 豪ドルヘッジ
(ケイマン諸島籍 オープン・エンド型免除アンブレラ・ファンド)
損益計算書

2017年11月1日から2018年3月26日までの期間 (未監査) (清算中)
(豪ドルで表示)

	豪ドル	千円
投資収益		
フィーダー・ファンドからの収益分配	48,029	3,898
費用		
管理事務代行および名義書換代行報酬	23,011	1,868
専門家報酬	19,767	1,604
印刷費用	7,452	605
受託報酬	5,114	415
投資運用報酬	4,792	389
保管報酬	2,479	201
販売報酬	2,463	200
代行協会員報酬	224	18
登録費用	181	15
管理報酬	179	15
その他の費用	753	61
費用合計	66,415	5,390
投資純損失	(18,386)	(1,492)
実現および未実現利益 (損失) :		
実現純利益 (損失) :		
フィーダー・ファンドの売却	4,516	367
実現純利益	4,516	367
未実現評価益 (評価損) の純変動 :		
フィーダー・ファンドへの投資	(48,361)	(3,925)
外貨換算および為替予約契約	15	1
未実現評価損の純変動	(48,346)	(3,924)
実現および未実現純損失	(43,830)	(3,557)
運用による純資産の減少	(62,216)	(5,049)

MUAMグローバル・ケイマン・トラスト
 ー新興国高利回り社債ファンド 豪ドル建 豪ドルヘッジ
 (ケイマン諸島籍 オープン・エンド型免除アンブレラ・ファンド)
 純資産変動計算書
 2017年11月1日から2018年3月26日までの期間 (未監査) (清算中)
 (豪ドルで表示)

	豪ドル	千円
運用による純資産の増加 (減少)		
投資純損失	(18,386)	(1,492)
実現純利益	4,516	367
未実現評価損の純変動	(48,346)	(3,924)
運用による純資産の減少	(62,216)	(5,049)
受益者への分配	(16,860)	(1,368)
サブ・ファンド受益証券取引による純資産の純減少	(372,354)	(30,220)
純資産の純減少	(451,430)	(36,638)
純資産		
期首	1,281,878	104,037
期末	830,448	67,399
	豪ドル建 クラス	
サブ・ファンド受益証券取引：		
受益証券		
発行	4,121,781 口	
買戻し	(64,556,163) 口	
受益証券口数の純変動	(60,434,382) 口	
	豪ドル	千円
金額		
発行	26,153	2,123
買戻し	(398,507)	(32,343)
サブ・ファンド受益証券取引による純資産の純減少額	(372,354)	(30,220)

V. 投資信託財産運用総括表

信託期間	投資信託当初払込日	2013年3月8日
	投資信託契約終了日	2018年3月26日

投資信託契約終了時（2018年3月26日）の状況		
資産総額	4,164,238.39米ドル	460,315千円
負債総額	346,608.94米ドル	38,314千円
純資産総額	3,817,629.45米ドル	422,001千円
	米ドル建 2,987,181.24米ドル	330,203千円
	豪ドル建 豪ドル ヘッジ 830,448.21豪ドル	67,399千円
受益証権口数	米ドル建 392,071,159口	
	豪ドル建 豪ドルヘッジ 138,667,845口	
一口当たり償還金	米ドル建 0.007619米ドル	0.8422円
	豪ドル建 豪ドル ヘッジ 0.005989豪ドル	0.4861円

区分	投資信託当初払込時	投資信託契約終了時	差引増減	
受益証権口数	米ドル建	3,844,965,846	392,071,159	-3,452,894,687
	豪ドル建 豪ドル ヘッジ	862,981,726	138,667,845	-724,313,881
元本額	米ドル建	38,449,658.46	2,987,181.24	-35,462,477.22
	豪ドル建 豪ドル ヘッジ	8,629,817.26	830,448.21	-7,799,369.05

毎計算期末の状況

<米ドル建>

計算期末	元本額		純資産総額		一口当たり純資産価格		一口当たり分配金		分配率 (%)
	米ドル	千円	米ドル	千円	米ドル	円	米ドル	円	
第1期末	38,449,658	4,250,225	49,444,645.37	5,465,611	0.009433	1.0427	0.00020	0.0221	2.12
第2期末	49,444,645.37	5,465,611	17,024,573.57	1,881,896	0.009066	1.0022	0.00048	0.0531	5.29
第3期末	17,024,573.57	1,881,896	7,201,090.43	796,009	0.007667	0.8475	0.00048	0.0531	6.26
第4期末	7,201,090.43	796,009	5,554,142.25	613,955	0.007815	0.8639	0.00048	0.0531	6.14
第5期末	5,554,142.25	613,955	4,378,188.79	483,965	0.007895	0.8727	0.00037	0.0409	4.69
第6期末	4,378,188.79	483,965	2,987,181.24	330,203	0.007619	0.8422	0.00012	0.0133	1.58

<豪ドル建 豪ドルヘッジ>

計算期末	元本額		純資産総額		一口当たり純資産価格		一口当たり分配金		分配率 (%)
	豪ドル	千円	豪ドル	千円	豪ドル	円	豪ドル	円	
第1期末	8,629,817.26	700,396	18,211,639.65	1,478,057	0.009447	0.7667	0.00030	0.0243	3.18
第2期末	18,211,639.65	1,478,057	7,673,755.58	622,802	0.008869	0.7198	0.00072	0.0584	8.12
第3期末	7,673,755.58	622,802	4,229,475.65	343,264	0.007252	0.5886	0.00067	0.0544	9.24
第4期末	4,229,475.65	343,264	2,943,088.37	238,861	0.006754	0.5482	0.00060	0.0487	8.88
第5期末	2,943,088.37	238,861	1,281,878.06	104,037	0.006438	0.5225	0.00038	0.0308	5.90
第6期末	1,281,878.06	104,037	830,448.21	67,399	0.005989	0.4861	0.00009	0.0073	1.50

VI. お知らせ

サブ・ファンドは、2018年3月26日に償還されました。